

## 災害が起こったら、外国人は要援護者!?

セミナーだより

～災害時外国人サポーター養成講座から～

当協会では、1月に「災害時外国人サポーター養成講座」を開催しました。この講座は、災害時に通訳や情報提供などをするボランティアを育成するためのものでしたが、その直後の3月11日に、予想もできないような大災害が起きてしまいました。

実際に災害が起きてみて実感したのは、本当に多くの情報が絶え間なく発信されるのだということです。日本語が不得意な外国人住民にそれらを翻訳してどんどん発信しても、更に混乱させてしまうかもしれません。だからこそ、正しい情報を伝えるための準備をしておく必要があるのです。

講座では、実際に災害が起きてボランティアが集まったと想定し、以下のグループに分かれて情報収集から避難所巡回をするまでの訓練を行いました。

- ①IT班…パソコンなどを使って情報収集、ホームページなどで情報発信
- ②翻訳班…たくさんの情報の中から、すぐに必要な情報をコンパクトにまとめ、必要な言語に翻訳する
- ③巡回班…外国人が避難している場所を調べ、どのようなルートで巡回するかを検討する

以上のような分担で必要な情報を外国人がいる避難所に持っていき、現地での聞き取りや情報収集もします。

今回の訓練は、「電気、ガス、水道の復旧見込みについて」「臨時の入浴施設開設時間について」「ごみの処分



避難所巡回訓練に参加するボランティア

について」などの行政文書が次々に届いたと想定して実施しました。IT班がそれらの情報の中から緊急性が高いものを翻訳班に回し、翻訳班はA4の紙1枚くらいにまとめて翻訳しました。また、そうやって情報をまわしているとボランティア全体で情報を共有できないため、届いた情報はすべて壁に張り出したり、避難所の張り紙を携帯で撮って送ったり、というような工夫が必要なことなども学びました。

現地ではテレビもラジオもつかず、その中で言葉も通じない外国人が感じる不安はどれほど大きいかと思います。次回は、実際に現場でどのような支援が求められたか特集します。

当協会では、ホームページで災害情報を提供するとともに、外国人総合相談センター埼玉で相談を受け付けています。

<http://www.sia1.jp/support/jishin20110311.html>

災害時外国人サポーター養成講座についてはこちらをご覧ください。

<http://www.sia1.jp/support/saigaikoza.html>

## グローバルセミナー2011 「海外の現場から学ぼう!」

2月26日(土)、北浦和ターミナルビル「カルタスホール」にて、52名の方にご参加いただき、グローバルセミナーを開催しました。

午前中は、「援助とはなにか」を考える第1分科会や、学校現場における開発教育の実践を知る第2分科会が開かれ、開発途上国の現状や援助する側の課題、またそれらをどのように日本の子どもに伝えているのかを学ぶ良い機会となったようです。

午後は「海外の現場から学ぼう!」をテーマにしたパネルディスカッション。ラオスという国を事例に、長年現地で活動するNGOスタッフや青年海外協力隊、研修で訪問した学校の先生など、異なる立場でラオスに関わった方々から様々な視点でのお話を伺いました。

最後の振り返りでは、「海外の現場で学んだことを、日々の生活でどのように活かしていけるか」について参加者同士で意見交換を行い、時間が足りないほど白熱した時間となりました。

中学生からシニア世代の方まで、年代も職業も多様な幅広い方々にご参加いただき、海外の現場と私達の日常をつなぐグローバルな視点を養うきっかけとなるような、充実した1日となりました。



参加者同志のディスカッション

### 参加者の感想

- 国際支援は何をすることなのか、どうするべきか考えることが出来た。
- 年齢、職業、立場を超えてディスカッションできたことは、とてもためになりました。自分がこれからできることを継続していきます。
- 実際に現地にいかれた先生が、教育現場で子どもたちに生の声を伝えていることを知り、素晴らしい教育だと思いました。
- それぞれの立場から国際協力に関わっている方々の体験談やお考えを伺うことが出来、このような国際協力の方法もあるのだと感銘を受けた。